

## 株主のみなさまへ 2

## 特集: 海外成長に向けてATM・プリンタ事業を支えるOKIのモノづくり 4

## 2014年度第2四半期累計期間セグメント別概況(連結) 6

## 第2四半期連結決算の概要 7

## トピックス 8

## 会社の概況 10

## 株式の状況/株主メモ 11

※ 金額単位の表示: 本中間報告書においては、億円単位未満を四捨五入しています。

## 見直しに関する注意事項

本報告書にはOKIの戦略、財務目標、技術、商品、サービス、業績などの将来予想に関する記述が含まれています。こうした記述は、現在入手可能な仮定やデータ、方法に基づいていますが、これらは必ずしも正しいとは限りません。また、これら将来予想に関する記述は、OKIの分析や予想を記述したもので、将来の業績を保証するものではありません。これらの記述はリスクや不確定要因を含んでおり、さまざまな要因により実際の結果と大きく異なりうることをあらかじめご承知願います。

## 株主のみなさまへ

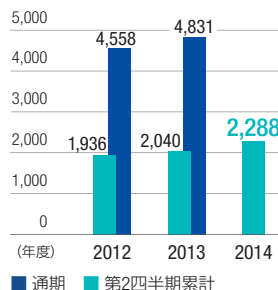
株主のみなさまには平素よりOKIグループの経営に対しまして多大なご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。第91期(2014年度)中間報告書をお届けするにあたり、ごあいさつ申し上げます。

当第2四半期累計期間のOKIグループの業績は、各事業とも計画を上回って好調に推移し、売上高は前年同期比248億円増加の2,288億円となりました。営業利益は、物量増やプリンタ事業での機種構成の良化などにより、同38億円増加の66億円となりました。経常利益は、為替差益の減少があったものの、同26億円増加の96億円となりました。また、四半期純利益は、前年度に行ったプリンタ事業の構造改革が一段落し、これに関連する特別損失の計上がなくなったことなどから同85億円増加の103億円となりました。

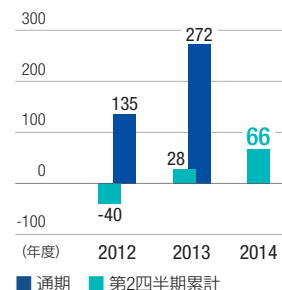
通期の見直しにつきましては、当第2四半期累計期間の業況を踏まえ、前回公表値を上方修正いたしました。情報通信システム事業では、中国をはじめとする海外向けATMや消防デジタル無線システムなどが好調に推移しています。プリンタ事業では、オフィスソリューション・プロフェッショナル市場向けの戦略商品や、オフィスプリンタ市場向けの上位機種の販売が順調です。EMS事業も、計画どおりに進捗しています。

## 業績推移(連結)

## ◆ 売上高 (億円)



## ◆ 営業利益 (億円)



これらの結果、通期業績は、売上高が前回公表比100億円増収の5,350億円、営業利益が同15億円増益の300億円、経常利益が同35億円増益の290億円、当期純利益が同35億円増益の210億円となる見込みです。

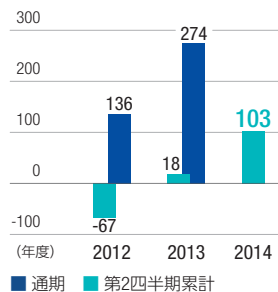
配当につきましては、当中間期末は、当初計画どおり1株当たり2円の配当を実施させていただきました。今期末につきましても、1株当たり2円の配当を行う予定です。OKIは、株主のみなさまへの安定的かつ継続的な利益還元を最重要課題として、引き続き取り組んでまいります。

OKIは、2013年11月に発表した「中期経営計画2016」において、目指す姿として「安全で快適な社会の実現に貢献する高付加価値創造企業グループになる」を掲げ、経営方針を「安定収益の確保により継続投資を行うことで、持続的成長を実現する」といたしました。初年度にあたる今期は、順調に推移しています。今後も、中期経営計画の目標達成に向かって、経営方針に基づいた商品開発、設備投資、アライアンス、人材強化などの諸施策を実行してまいります。

株主のみなさまには、これまでと変わらぬご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

2014年12月

◆ 当期(四半期)純利益 (億円)



代表取締役社長

川崎 秀一

